

「WAM 助成事業における不登校やひきこもりの初期介入支援と 自立支援サポート事業の研修会を経て感じたこと」

訪問看護ステーション 栞 スタッフ2名

「引きこもり」や「不登校」は今の世の中の社会問題の1つであると考えております。その状態に至るまで、本人の持つ特性や環境など様々な要因があると考えられますが、改善・解決するためには複雑に絡み合った原因を紐解いていかなければなりません。第2, 3回目の研修に参加し、訪問看護師という立場で多く学びを得ることができました。

まず田邊氏の講演では、「トラウマ・インフォームド・ケア（TIC）」が関わり方のテーマとして挙げられておりました。人それぞれ思考過程や物事に対する捉え方、尺度が異なるようにトラウマというものも、他者からすれば大したことではないと思えることも当事者からすれば重大な過去の出来事です。

原因や過程を知ると同時に当事者に過去を想起させることに他ならず、容易に踏み入れるものではありません。支援者の自己解釈で捉え方や程度を誤れば、たちまちトラウマが再燃してしまう可能性もあります。だからこそ、信頼関係を築くことのできる関わり方や環境を整え当事者が安心できる場所や空間を作ることが必要であると学びました。

日頃、利用者さまのもとへ訪問した際に支援者である自分の考えを優先させてしまうことや悪意なく言葉を立て続けに並べプレッシャーをかけてしまっていたのではないかと考え直させられました。わたしたちはあくまでも「支援者」であることを忘れず、機微に気づける観察眼を持ち、当人の意思決定や決断ができるよう後押しできる存在であり続けようと思うことができました。

次に、山根氏の講演では「家族支援」をテーマとして挙げられておりました。多くの利用者様がご自宅で生活されているため、必然的に私たちがご家族とも関わる機会があります。

今回の研修のテーマである「引きこもり」や「不登校」の状態にある方々には、より一層支援者のご家族との関わりが欠かせないものだと思います。当事者はもちろんのこと、ご家族の抱えきれない不安、どうにかしたいがどうにもならない困窮、変わらない現状に対する疲労など様々な思いを感じることも少なくありません。

わたしたち支援者はご家族と違い、生活の中で見ればどうしても断続的な関わりしかできません。だからこそ一緒に住まう、一緒に過ごすご家族が安心して思いを話せる場所や話せる相手がいることが家族にとっての精神的な負担を軽減させることに繋がるのだとより強く実感することができました。

最後に、今回の研修を経て社会的な問題となっている「不登校」「ひきこもり」の方々に対する支援の必要性、そして実際に介入となった場合の関係性の築き方や支援の在り方について学ぶことができました。

また、今回得られたものは普段の訪問にて実践していけるものであるため、寄り添い否定せず、ご利用者さまやそのご家族が安心して過ごせるよう支援し続けていきたいと思います。